

[2] 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：4題	解答数：28問
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評</p> <p>大問数・解答数・出題分野・出題形式などはほぼ例年通りであり、大きな変化は見られなかった。正誤判定の問題は、誤っているものを選ぶ問題が中心であるが、明らかに誤りとわかる選択肢をもつ設問が多かった。さらに、計算問題に関しても、複雑な計算を要求するものはなかったので、昨年よりは解き易く、平均点は上昇すると思われる。昨年度の化学の平均点は非常に低かったため、これはある意味当然と言えるかもしれない。</p>		

[3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	電解質と結合 周期表 電子配置 物質質量 反応量 身のまわりの物質	25点	「物質の構成」および「身のまわりの物質」に関する小問集合。そのうち計算問題は2題、正誤判定は2題。 ここ数年見られる傾向であるが、問6のような「身のまわりで利用されている物質」に関する設問は、下線がつけられ、解きやすくなっている。
第2問	熱化学 酸化剤と還元剤 中和滴定 燃料電池と電気分解	25点	「物質の反応」に関する小問集合。そのうち計算問題は4題、正誤判定は6題。 例年に比べて熱化学の問題が多く出題された。 問6は、燃料電池が4年ぶりに出題され、今回はグラフと絡めた問題であったが、反応のヒントが与えられており、比較的解き易かっただろう。
第3問	希ガス 熱分解 同素体 イオン化傾向 鉄の製錬 沈殿生成 化学式	25点	「無機物質」に関する小問集合。そのうち計算問題1題、正誤判定4題。 「焼きセッコウ」、「フラーレン」などの比較の見慣れない物質が登場しているが、他に明らかに解答となる選択肢があるので、悩むことはなかっただろう。
第4問	アルコール 立体異性体 銀鏡反応 ヨードホルム反応 クメン法 エステル合成実験 構造異性体	25点	「有機化合物」に関する小問集合。そのうち正誤判定は、4題。例年、センター試験では、有機化学の計算問題が出題されていたが、今回はなかった。 問2と問6の異性体に関する問題は練習量がものをいっているので、解くのに要した時間に差がついたのではないかと思われる。問5は実験操作に関する設問であり、解きにくいと感じた受験生も多かったのではないだろうか。